

農地土壌の作物生産性を考慮した区画整備

農地の大区画化整備では、表土の移動集積→基盤土の標高調整→表土戻し・整地の順に工事を行います。表土の移動集積や表土戻し・整地を表土が湿った状態で行うと、表土の良好な物理性(水はけ、保水性)が損なわれる恐れがあります。資源保全チームでは、整備後の表土の物理性など作物生産性を考慮し、施工に伴う表土の物理性の悪化を抑制するため、降雨後の施工開始の基準を定量化した検討の流れと施工開始時の判断フローを作成しました。

区画整備後の圃場の様子

【湿った状態で施工した場合】



排水性等、表土の物理性が悪化した大区画圃場

【乾いた状態で施工した場合】



排水性等、表土の物理性が良好な大区画圃場

施工開始の判断基準



降雨直後の圃場面

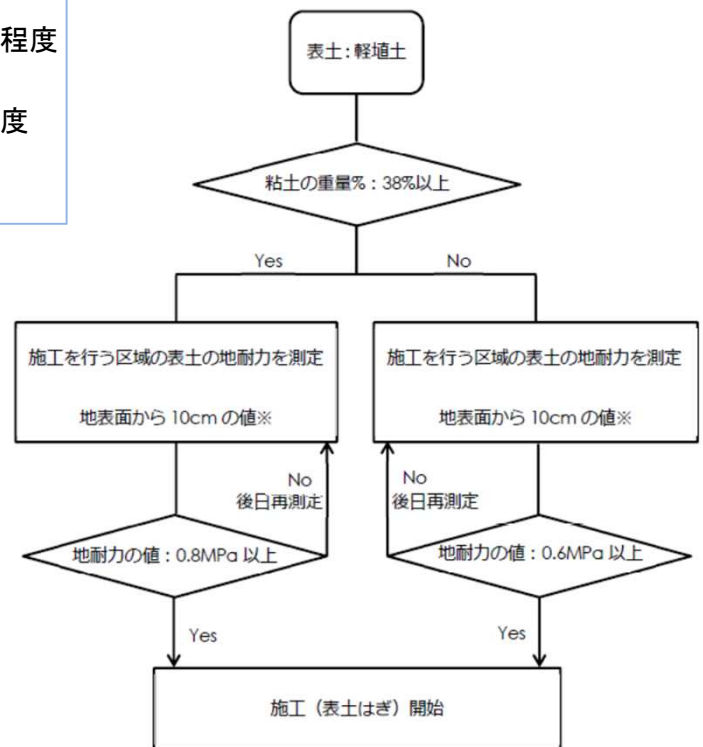
《美唄(軽埴土)の事例》

- ・日雨量10mm以下
⇒降雨後1日半～2日程度
- ・日雨量10～20mm
⇒降雨後2日～3日程度
- ・日雨量20～30mm
⇒降雨後4日程度

降雨後の施工開始までの目安(一例)



判断フローを掲載したマニュアル
(資源保全チームHPに掲載)



施工開始の判断フロー